

KOMAZAWA × 0 RYUITSU KEIZAI

駒澤大学 4 - 0 流通経済大学



激しいプレスで相手の攻撃を封じた筑城。本人は「全然出来ていなかった」と話すも、そのハードマークがチームに勝利を呼び寄せた。

(撮影・野澤俊介)

取り戻した闘う“気持ち” 流経大に無失点の快勝！

死地からの生還

リーグ戦開幕から早くも1ヶ月。久々の初戦白星を飾った駒大はスタートダッシュを狙っていた。しかし第2節ではまさかの黒星。第3節も「気持ち」を切り替えられず、前半2点奪うも後半2点取られてしまつたという、屈辱な展開の引き分けで終わってしまった。だが、ここで朽ちる駒大ではない。流経大の調子が良くないという事もあるが、この日の駒大には「頑張り」という意識とチームでやるうというのが徹底されていた。(秋田監督)

立ち上がり7分、原が先制点を奪つと、31分には赤嶺が追加点を上げ20で前半終了。ここまでは前回と同じパターンである。そして、問題は次をどうするかであった。第3節では、2得点した後の彼らにはかすかな気の緩みが見えた。更に気が付けば2点取り返されてしまう始末。だが、前回それを学んだ選手は同じ過ちを繰り返さなかった。48分、中央の赤嶺が原にグラウンダーのパス。そのボールを原がドリブルしながら新川へ回しそのままシュート。ゴールを演出する。まさしく駒大がここ何週間前から出来なかったシーンであった。それは、「チームが勝つために闘う気持ち」の変化であり、アシストをした原が試合終了後、「3点目はいこうと思ったらいけたが、3点目を大事にしていたので確実な方を選んだ」と語る言葉からも覗える。その後99分、八角からのパスをまたしても原が左足でゴールへと押し込み4 - 0と無失点の快勝となった。

ゴールを守りきった牧野は、「チーム全体として(気持ち)の意識は高かった」と振り返った。また、牧野と共に90分間守り抜いた選手の一人、筑城は「無失点に抑えられて良かった」と語った。今試合が初スタメンとなったルーキーの安藤も、「強気なプレーでいこうと思っていた」とコメントしたように、積極的なプレーで堂々たる活躍ぶりを見せた。秋田監督も「今後、良いサイドバックになれる」とこの日の安藤の印象を話す。

前節から気持ちの変化が見られた彼らだが、これで終わりではない。本当の勝負はこれから始まる。己と己まで戦い抜けるか。まだまだ目が離せない。

(深松 美里)